

ふるさとで学ぶ



愛知県の各地で活動されている「あいち観光ボランティアガイド」のみなさん。活動を通して、地域の活性化に貢献することや、人と出会い、交流を広めていくことが、自身の生きがいにもつながっています。今回は清須市と瀬戸市に出かけ、地域で活躍するボランティアガイドさんにお話を伺いました。



うるん

清須ガイドボランティアの会



きよ丸

～清須の歴史を知り、郷土に愛着を持ってガイド～

織田信長が天下統一へ踏み出す桶狭間の戦いでは、清洲城から出陣して勝利を収め、また、本能寺の変後、信長の後継者を協議した清洲会議では、その後の戦国時代の勢力図が書き換えられました。このように歴史上の要所となってきた清須市。清須の歴史について語るガイドボランティアの会のみなさんにお話を伺いました。



【清洲城の前で受け付け】

無料ガイドをしています

五条川にかかる赤い大手門橋の奥に、清須市のシンボル「清洲城」がそびえています。大手門の前に設置されたテントの中で、清須市ガイドボランティアの方が待機されていました。この日は、会長の毛利さんをはじめ3名の方が担当されていました。会員32名の方が交代で、午前と午後に分かれて案内されるそうです。(大手門前のガイドは11月まで)

「清須に長く住んでいても清須のことをよく知りませんでした。清須にまつわる歴史について、初めて知ることが多く驚きました。学んでいるうちに清須に愛着が湧きました」「地元のことをもっと調べて、分かりやすく伝えていきたいです」と会員の瀬尾さんは明るく話されました。



【地域のシンボル清洲城】

清須に来て、歴史に触れてみては

清洲城の高さは約28メートル。天守の最上階からの眺望は壮観で、清須の街並み、養老山脈や名古屋城などを見ることができます。最上階まで一度は登られることをお勧めします。城内には、戦国時代の武具や衣装、三英傑と清須との関わりなどがよく分かる資料が展示されています。今の清洲城は、昔の清洲城を再現したものでなく、天守閣は犬山城を模倣して造られたそうです。建築様式など歴史事実に基づいて建てられたものではないですが、清須市のシンボリックな資料館として、地元の人々に親しまれています。

清洲城以外に、清洲古城跡周辺や美濃路のガイドも行っているとのことでした。取材中にも「九州から来ました。ガイドをお願いします」と団体客からガイドの申込みがありました。NHKの大河ドラマの影響で遠い地域から団体で訪れる方が増えたそうです。「遠くの方に清須の歴史を知ってもらうことはとてもありがたいことです。だからこそ、地元の歴史をよく調べて正しく伝えたい。また、清須に来て良かったと思われるようなガイドがしたい」と話される会員の箕浦さんの言葉から、郷土「清須」を深く愛し、誇りを持ってガイドをされている様子が伝わってきました。



【私たちがご案内します】

プレッシャーがかかってはボランティアではない

「ガイドを毎日やることは、大変だと思われがちですが、健康維持、仲間づくりにはとてもいいですよ」「リタイアしても地域に貢献することが大切だと思っています。ボランティア活動は、地域とのつながりを大切にしつつ、自分も楽しみながらマイペースでやることができれば幸せですね」と毛利さん。ガイドボランティアに生きがいを感じて、活動されている会の皆さんに生涯学習が目指す姿を示して頂いた気がしました。



瀬戸市観光ボランティア

～瀬戸のまちを輝かせ、訪れる方に喜びを与えるガイド～



日本有数の陶磁器である「瀬戸焼」の生産地として知られる瀬戸市。毎年9月に行われるせともの祭は約40万人の人出で賑わいます。近年は観光都市として各種のイベントを積極的に行っている瀬戸市。そんな瀬戸市を愛するボランティアガイドの方にお話を伺いました。

瀬戸のまちをまるごと博物館に

瀬戸市でボランティアガイドの活動をされている後藤恵治さんに、瀬戸蔵でお話を伺いました。瀬戸蔵は、近代的な建物で、「産業観光」「市民交流」を支援する複合施設となっています。また、まち全体を博物館や美術館に見立ててまちづくりを行う「せと・まるっとミュージアム」の拠点施設となっています。2階には、瀬戸焼などに関する瀬戸蔵ミュージアム、1階はレストランや瀬戸焼販売店などがあり、観光客や市民の方が訪れ賑わっています。



【瀬戸蔵の外観】

瀬戸のまちを散策して

後藤さんに瀬戸川を中心に市内を案内して頂きました。瀬戸蔵を背にしてモニュメントが特徴的な記念橋を渡ります。瀬戸川には、たくさんの橋が架かっていて、陶板に「十二干支」をあしらった宮脇橋、草花が描かれた「ねずみ志野」の東橋など、「やきものの橋めぐり」をすることで、新たな発見をしながら楽しむことができます。法雲寺の陶製の釣鐘、深川神社にある重文の陶製狛犬。また、陶祖公園には、日本最大級の高さ4・1mの陶製六角碑など、貴重な陶製品や記念碑がたくさんあります。



【瀬戸蔵の中にある展示品】

せと末広商店街で「瀬戸ノベルティ倶楽部」を発見したときは驚きました。ノベルティとは、陶磁製の西洋人形などの置物、装飾品です。

陶器、陶製の宝物があちらこちらにあり、まさに瀬戸市は、日本有数の焼き物のまちだと思いました。



【橋の欄干にある干支の陶板】

人との出会いを大切にしたい

約30人の観光ボランティアガイドのみなさんが、瀬戸を訪れる方々に温かいおもてなしの心で、見どころ（窯垣の小径コース・歴史コース）をご案内いたします。後藤さんはガイドを始めて4年目。命令口調にならないことや足が不自由な方には「大丈夫ですか」と、声をかけるなどして、相手の立場に立った案内に心がけているそうです。苦勞されていることは何ですかと尋ねると、「ガイドが楽しく、世の中の役に立っていると思っているから苦勞はありません。訪れた人と触れ合えたり新しい仲間が出来たりして、人とのつながりができていいですね」と、満面の笑みで答えられました。

瀬戸は焼き物だけではなく、四季を通じて楽しい行事があるそうです。まち全体を博物館に見立ててある瀬戸を、ガイドの方と巡ってみてはいかがでしょうか。



【ガイドの後藤恵治さん】

愛知県観光ボランティアガイドのホームページ

⇒<http://www.aichi-kanko.jp/volunteer/index.html>

問合せ先

- ①清須市観光協会 052-400-2911
- ②瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会 0561-85-2730

あなたの旅をサポートします